

「命を得るため」

ヨハネによる福音書 第20章30節～31節

説教 村上修平牧師

最近、聖書やキリスト教信仰について学びたいと言う方々が、多く大阪教会にお越しになっています。聖書の中には、神様から『聖書を食べてみなさい。』と言われた預言者エゼキエルが登場します。彼は言います。聖書は「蜜のように口に甘かった」(エゼキエル書 3章3節【新共同訳】)と。この聖書、年間4億冊が売られ、2,000以上の言語で翻訳されています。これは、神様からのラブレターです。

そして、本日はその中のヨハネによる福音書をお読み致しました。イエスの弟子のヨハネが、書いて伝えてくれたのです。この弟子は、イエスに出会って本当に感動したのだと思います。そして、その感動を伝えたくて、福音書を書いたのです。「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」(20章31節)ヨハネは福音書の意図を明らかにしています。イエスは神の子、メシアであると信じて、あなたがたも“命”を受けようと言うのです。ですから、聖書を読んで、字面だけで通り過ぎないで下さい。自分の口で料理を味わって食べるように、聖書も味わって下さい。

さて、ヨハネによる福音書の中で、“命”と訳されている言葉には、①“プシュケー”と②“ゾーエー”のふたつのギリシャ語が使われています。生物学的な命が①。②は、死んで無くならないものです。死んでも生き続ける命です。“ゾー”には『生き活きと生きる』の意味があります。ですから、イエスが言われた「わたしは道であり、真理であり、命である。」(14章6節)の“命”は②の“ゾーエー”です。また、「わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(11章25節)と言われた、その“命”です。イエスを信じる人はいつでも生き活きと輝いて生きることができるのです。

「わたしは道であり、真理であり、命である。」とイエスが言われた時。これは大変な時であり、不安で一杯な場面でした。しかし、『恐れなくて、私を信じてみなさい。』と、言って下さるのです。イエス・キリストは私たちの事をとても心に掛けて下さるお方です。ある時の事です。イエスの所に目が全く見えない人が連れて来られました。人々は尋ねます。『あの人が生まれつき病気なのは、誰かが罪を犯したからなのですか？本

人が罪を犯した？それとも家族？』と。イエスは『この人のせいではありません。親のせいでもありません。神の業が、この人の上に起きる為です。』とお答えになりました。『彼は、神によって、活き活きと輝き、用いられる人だ。』と言われ、彼の目を癒し、主イエスを信じる信仰をお与えになりました。この話はヨハネによる福音書にのみ記されています。ですから、おそらく福音書の記者であるヨハネが直接、目を癒された人から聞いたのであろうと思われる。この人はイエスによって自分が宝のように大事にされていることを知って、『イエスこそメシア(救い主)』と大喜びで人々に伝えたのです。

イエスを信じる者は誰でも、イエスの愛と命によって満たされ、輝くことができるのです。イエスを信じる者は、イエスの“命”をイエスと共に歩めるのです。イエスは、「道であり、真理であり、命である。」のです。そして、イエスは「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(15章13節)と仰り、「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(12章24節)とも、仰るのです。それは、種芋の姿にも見るすることができます。種芋を植えると、そこから芋が増えます。ところが、種芋自体は干からびてしぼんで小さくなるのです。この姿こそ、イエス・キリストの仰る“一粒の麦”ではないかと思うのです。今から2,000年前、主イエスは十字架にかかり、私たちの為に命を与えて下さったのです。イエスご自身は今も私たちの為に、その命の全てを注いで下さっています。このイエスの愛を受けたいと思います。

イエスの愛は、失われた1匹の羊を、どこまでも、どこまでも捜して下さる愛です。100匹の内の1匹である迷子の私を捜し続けていて下さるのです。(ルカによる福音書 15章1節～7節)『あなたは命を捨てる程に大切な人だ。』と言って下さるのです。この“命”に生かされて、花を咲かせ、実を結ぶ様に私たちは召されています。神様はその様に私たちを造って下さいました。死んで終わる命ではなく、いつまでも活き活きと“輝く命”として生かされる様に、聖霊が豊かにあなたを捕らえて下さいます様に。

(記 説教要約奉仕者)